

【福島県合同輸血療法委員会】

輸血に関するアンケート調査集計結果（2020年度）【2022年9月8日時点】

*参考：【 】内は2019年4月～2020年3月の調査結果

病院版

1 調査対象施設等

- (1) 調査対象施設：県内の病院88施設
- (2) 調査対象期間：2020年4月から2021年3月まで
- (3) 調査方法：アンケートへの依頼文書を郵送で送付し、福島県薬務課のホームページよりファイル(Excel形式)でダウンロードし、記入したファイルをメールに添付した形で回収した。対応が困難な場合は、FAX等で回収した。
- (4) 回収率：89.8%（79病院から回答）

2 集計結果の概要（項目別）

◎集計結果の報告書を作成するにあたり、病院名等を公開して良いか

可：46病院（58.2%）

I 輸血管管理料取得状況について

51病院（64.6%）〔管理料Ⅰ：11病院、管理料Ⅱ：40病院〕

II I & A取得状況について

取得済：5病院（6.3%）

III 輸血療法委員会等について

- (1) 輸血療法委員会等の設置数 【65病院（85.5%）】
68病院（86.1%）

- (2) 輸血療法委員会を設置しない理由（複数回答あり）

11病院

（指導医がいない：5、他の委員会で協議：3、使用がほとんどない：4、その他：0）

- (3) 輸血療法委員長の職種

医師（専門科目：外科：28（心臓血管、脳神経、整形等を含む）、内科：23（消化器、循環器、腎臓、血液等を含む）、麻酔科：4（歯科を含む）、循環器科2、消化器科1、泌尿器科2、耳鼻咽喉科1、小児科2、精神科1、その他3、未回答：1）

- (4) 輸血療法委員会の開催回数（回/年）

6回/年：51、12回/年：8、1回/年：1、2回/年：2、3回/年：1、4回/年：1、8回/年：1、11回/年：1、1～2回/年：1、0回/年：1

- (5) -1 認定臨床輸血看護師、アフェレーシスナース、自己血輸血看護師、認定輸血検査技師人数（合計）

認定・臨床輸血看護師：62、認定・アフェレーシスナース：4、認定・自己血輸血看護師：14
認定・輸血検査技師：24

- (5) -2 (5) -1のうち輸血療法委員会参加人数（医療施設数/輸血療法委員会有68施設）

認定臨床輸血看護師：28（17/68）認定・アフェレーシスナース：2（1/68）
認定・自己血輸血看護師：7（4/68）認定輸血検査技師：15（12/68）

- (6) 血液センター職員のオブザーバー受け入れ状況(新規追加)

毎回：7、一部：1、場合による：5、なし：58、未回答：8

IV 指針等について

(1) 輸血部門の設置数等（複数回答あり）

輸血部門：58病院（73.4%）【54病院（71.1%）】

}	検査部	63件
	輸血部	2件
	薬剤部	5件
	その他	0件

血液製剤保管場所（複数回答あり）

}	検査部	62件
	薬剤部	12件
	輸血部	5件
	その他	6件

(2) 自記温度計、警報装置の設置数等（複数回答あり）

自記温度計：70病院（91.1%）【67病院（88.2%）】

}	記録の頻度	毎日	75件
		年に1回	1件
		月に1回	1件
		不定期	1件

警報装置：72病院（91.1%）【68病院（89.5%）】

冷蔵庫・冷凍庫の保守点検の頻度

}	毎日	45件、	年に1回	13件、	月に1回	10件、
	週に1回	2件、	その他	7件		

(3) 他の管理項目等

1) 運搬容器の設置：62病院（78.5%）【62病院（81.6%）】

2) 輸血用血液製剤と血漿分画製剤の管理の一元化：24病院（30.4%）【27病院（35.5%）】

3) 管理記録簿等：79病院（100.0%）【76病院（100.0%）】

内訳（複数回答有）：コンピュータ管理：28、手書き伝票：24、両方：27

(4) 輸血前後の感染症検査の実施

全例：32病院、一部のみ：36病院、行っていない：8病院、未回答：3病院

1) 輸血前の感染症検査項目：

HBV	63件
HCV	61件
HIV	28件

2) 輸血後の感染症検査項目：

HBV	58件
HCV	57件
HIV	45件

(5) 輸血前の感染症検査用検体の保管等

全例：61病院（77.2%）、一部：2病院（2.5%）、なし：14病院（17.7%）、未回答：2病院（2.5%）

(6) 遡及調査ガイドラインで求められる検査項目の認知（複数回答あり）

HBV：70病院（88.6%）、HCV：69病院（87.3%）、HIV：68病院（86.1%）、知らない：4病院（5.1%）、未回答：4病院（5.1%）

V 輸血検査および輸血実施について

- (1) 患者血液型検査の二重チェック：65病院（82.3%）
- (2) 不規則抗体スクリーニング
- 1) 輸血前不規則抗体スクリーニング：71病院（89.9%）
 - 2) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：73病院（92.4%）
 - 3) 陽性となった場合の対応：

{	民間の検査センター 26病院、自施設 28病院、
	血液センター 10病院、自施設・血液センター 6病院、
	民間の検査センター・血液センター 6病院、未回答 3病院
- (3) 交差適合試験
- 1) 輸血前交差適合試験：77病院（97.5%）
 - 2) 輸血に先立つ3日以内の検体を用いて実施：76病院（96.2%）
 - 3) 間接抗グロブリン試験を含む検査法：74病院（93.7%）
 - 4) コンピュータクロスマッチの実施：6病院（7.6%）
 - 5) 陽性となった場合の対応：

{	自施設 30病院、血液センター 21病院、
	民間の検査センター 17病院、自施設・血液センター 6病院、
	民間の検査センター・血液センター 4病院、未回答 1病院
- (4) 説明と同意（インフォームド・コンセント）について（複数回答あり）
- 1) インフォームド・コンセントを担当する主な職種：

{	医師 71病院
	看護師 6病院
	その他 2病院
	未回答 1病院
 - 2) 頻回輸血における同意書の取得頻度：

{	月1回 21病院、2～3か月に1回 14病院、
	3か月以上 8病院、週1回 5病院、取らない 4病院
	その他 24件、未回答 3病院
- (5) 患者認証方法
- 1) ナースステーションにおいて複数名で確認している：77病院（97.5%）
 - 2) ベッドサイドで患者本人を確認している：78病院（98.7%）
 - 3) 電子照合システム導入：39病院（49.4%）
- (6) 経過観察
- 1) 輸血開始後バイタルチェック：

{	開始時・5分・15分・終了後	61病院（77.2%）
	開始時・5分・15分	2病院（2.5%）
	開始時・5分・終了後	1病院（1.3%）
	開始時・15分・終了後	1病院（1.3%）
	5分・15分・終了後	3病院（3.8%）
	開始時・終了後	2病院（2.5%）
	5分・15分	5病院（6.3%）
	15分	4病院（5.1%）

2)バイタルチェックの項目：	体温・血圧・脈拍・酸素飽和度	56病院 (70.9%)
	体温・血圧・脈拍・酸素飽和度・その他	3病院 (3.8%)
	体温・血圧・脈拍	16病院 (20.3%)
	血圧・脈拍	2病院 (2.5%)
	未回答	2病院 (2.5%)

3)輸血終了後の継続的な患者観察時間：	30分～1時間	36病院 (45.6%)
	1時間～2時間	16病院 (20.3%)
	2時間～3時間	9病院 (11.4%)
	3時間以上	9病院 (11.4%)
	その他	8病院 (10.1%)
	未回答	1病院 (1.3%)

4)使用済み製剤バッグの保管期間：	保管していない	31病院 (39.2%)
	輸血翌日	7病院 (8.9%)
	2～数日間	7病院 (8.9%)
	1週間以上	32病院 (40.5%)
	その他	1病院 (1.3%)
	未回答	1病院 (1.3%)

VI 輸血用血液製剤使用状況について

全血液製剤使用単位数合計 227,474 単位

- (1) 赤血球製剤の使用量は 100,114 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、44.0%である。
(2) 血小板製剤の使用量は 102,263 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は、45.0%である。
(3) 血しょう製剤の使用量は 25,097 単位で、輸血用血液製剤全体に占める割合は 11.0%である。

VII 輸血用血液製剤廃棄状況について

全血液製剤廃棄単位数合計 1,918 単位 【2,150 単位】

全血液製剤の廃棄率は 0.8% である。 【0.9%】

- (1) 赤血球製剤の廃棄量は 1,444 単位。 【1,339 単位】
(2) 血小板製剤の廃棄量は 140 単位。 【305 単位】
(3) 血しょう製剤の廃棄量は 334 単位。 【506 単位】

○輸血用血液製剤の在庫状況

輸血用血液製剤在庫有 16病院 【16病院】

VII 輸血患者および輸血使用状況について

(1) 年代別及び男女別輸血状況について

輸血患者総数 21,165人

90歳以上	2,471人 (11.7%)
80-89歳	5,800人 (27.4%)
70-79歳	5,409人 (25.6%) (うち、70歳以上年代詳細不明：127人)
60-69歳	3,699人 (17.5%)
50-59歳	1,520人 (7.2%)
40-49歳	803人 (3.8%)
30-39歳	398人 (1.9%)
20-29歳	134人 (0.6%)
10-19歳	134人 (0.6%)
5-9歳	60人 (0.3%)
0-9歳	151人 (0.7%)
年代不明	586人 (2.8%)
男性	10,493人 (49.6%)
女性	10,672人 (50.4%)

(2) 診療科別輸血状況 (回答医療施設数：79)

※うち8施設が、診療科別輸血患者数未記入

内科全体数 10,197人

消化器内科：	2,495人
循環器内科：	1,143人
呼吸器内科：	135人
血液内科：	4,733人
その他内科：	1,691人

外科全体数 7,031人

消化器外科：	1,381人
呼吸器外科：	138人
心臓血管外科：	1,063人
形成外科：	73人
整形外科：	2,641人
脳神経外科：	500人
その他外科：	1,235人

その他診療科全体数 4,072人

小児科：	307人
産婦人科：	791人
泌尿器科：	821人
麻酔・集中治療科：	1,985人
その他：	168人

IX 自己血輸血について

自己血輸血実施病院：25病院 (31.6%)

【25病院 (32.9%)】

○貯血式自己血輸血 (液状保存)

実施症例数 (同種血併用例)：1,122例 (32例)

【1,066例 (13例)】

採血量 (貯血量)：2,431単位

【3,205単位】

使用量 (輸血量)：2,043単位

【2,887単位】

○貯血式自己血輸血（凍結保存）

実施症例数（同種血併用例）：7例（0例） 【10例（0例）】
 採血量（貯血量）：14単位 【0単位】
 使用量（輸血量）：10単位 【8単位】

○回収式自己血輸血

使用量の管理部門での把握：

{	はい	5病院
	いいえ	19病院
	その他で管理	0病院
	未回答	55病院

 実施症例数（同種血併用例）：277例（237例） 【384例（222例）】
 使用量（輸血量）：241, 476mL 【321, 556mL】

○希釈式自己血輸血

使用量の管理部門での把握

{	はい	4病院
	いいえ	17病院
	その他	0病院
	未回答	58病院

 実施症例数（同種血併用例）：19例（0例） 【5例（1例）】
 採血量（貯血量）：289単位 【12単位】
 使用量（輸血量）：289単位 【12単位】

X 血漿分画製剤使用状況について

アルブミン製剤合計： 296, 017.3g 【336, 514.7g】
 フィブリノゲン製剤合計： 1, 026.0g 【 938.8g】

XI 外来輸血および在宅輸血について

(1) 外来輸血または在宅輸血実施

{	外来輸血	25病院（31.6%）
	在宅輸血	0病院（0.0%）
	どちらも実施なし	54病院
	未回答	0病院

(2) 外来輸血後の患者観察

{	医療関係者	30病院
	患者家族	6病院
	医療関係者・	3病院
	患者家族	

(3) 在宅輸血時の患者観察 医療関係者 0病院

(4) 外来輸血または在宅輸血を実施している患者の主な診療科

血液内科	16件
消化器内科	16件
循環器内科	7件
その他	22件

(5) 疾患名・人数

血液疾患	：	24件（2,107人）
腎疾患	：	20件（288人）
悪性腫瘍	：	14件（474人）
消化管出血	：	15件（608人）
その他	：	22件（323人）

